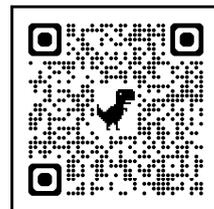




第2回学校評価の結果を受けて～結果及び改善策、学校としての方針等【その1】

保護者の皆様には、二学期末に第2回学校評価に回答いただき、ありがとうございました。児童、保護者、教職員による評価から、成果や課題が明確になりましたので、今後に向けての改善策や学校としての方針等をまとめました。詳しい結果につきましては、学校Webページのトップページから確認することができます。右のQRコードをスマートフォン等で読み取ってもらえれば、トップページが開きます。

学校通信では2号にわたり、「そう思う」と「大体そう思う」の合計が80%以下だった項目のみを取り上げ、その改善策や学校としての方針等をお伝えしていきます。



I 教育課程・学習指導

児童:あなたは、家で学習や読書をしていますか【62%】

保護者:お子さんには、家庭で学習や読書をする習慣が身に付いていますか【62%】

職員:家庭で自主的に学習や読書をする習慣が身に付くようにする手立てを工夫していますか【69%】

学校では、宿題の提示にとどまらず、授業を通じて「学びの楽しさ」を実感させることで、自発的な家庭学習につなげたいと模索してきました。しかし、現状では学習習慣が定着しきっていない児童も多く、保護者の皆様も同様の不安を感じていることが結果から分かります。今後、学校では「何を・どう学べばよいか」という具体的な学習の進め方をより丁寧に指導し、子供たちが迷わず家庭学習に取り組めるよう改善を重ねていきます。また、習慣化には、ご家庭での「環境づくり」と、保護者の方からの「温かな声かけ」が何よりの支えです。特に小学校期は、大人が関心を寄せることが、子供の大きな意欲へと繋がります。ぜひ「なぜ学ぶのか」をご家族で語り合い、学びを支えるパートナーとして、引き続きご協力をお願いします。

II 生徒指導

保護者:お子さんは、あいさつをしたり、場や相手に応じた言葉をつかったりしていますか【75%】

「あいさつ・返事」ができ、場に応じた行動が取れる子供の育成は、本校の最重点目標の一つです。あいさつは人間関係の土台であり、校長からの講話や、学級委員による毎朝の「あいさつ運動」を通じて、その大切さを伝え続けてきました。活気あるあいさつができる児童は着実に増えていますが、一方で、丁寧な言葉遣いや場に応じた振る舞いについては、まだ課題も残っています。礼儀の習得には、日常的な反復と「モデルとなる大人の存在」が欠かせません。学校ではマナー教育の充実に努めていますので、ご家庭におかれましても、身近な家族間でのあいさつを大切にするとともに、相手を敬う心についてお子さんと語り合う機会をもっていただければ幸いです。

III キャリア教育

児童:あなたは、自分の目標や将来の夢について考えていますか【74%】

キャリア教育とは、子供たちが将来、自分らしく生きていくために必要な能力や態度を育む教育活動です。小学校段階から「どんな自分になりたいか」をイメージし、そのために「今、何をすべきか」を考え、実行する力をつけることが大切です。アンケート結果では、将来の夢や目標を持っている児童が、まだ少ない現状にあります。学校でも、学ぶことや働くことが自分の未来を豊かにすると実感できる働きかけを行っています。ぜひご家庭でも、保護者の皆様の仕事を通じて感じている喜びや苦勞、目標をもって生きることの大切さを、お子さんに語り聞かせてあげてください。身近な大人の姿を知ることが、将来の夢を描く第一歩となります。